

ICTで 授業 をDX!

学年 小学校6年 教科 国語 など

令和の日本型学校教育を実現する授業展開

使用するアプリケーション等
・ Microsoft Teams
・ Microsoft Excel,Power Point, Word, Forms

単元・題材 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう
「やまなし / [資料] イーハトーヴの夢」

本時の目標 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

ICTを活用することで できること

- ・ Microsoft Teamsの「投稿」機能：子供たちが今日行うべきことが何かを事前に把握することができる。今までであれば説明する必要があったが、この方が言葉が精選され、記憶に残すことができる。
- ・ Excel：本時の課題に対して「本時をどのように学ぶのか」や「今日の学習は何をするか」を選択できるようにした。(学習の個別化) これまでは教師のやり方で学習をしなければならなかったことが、多様な学び方へと変化することが期待できる。
- ・ PowerPoint、Word：共同編集機能を活用し、子どもたちが自分にとって適切なコミュニケーションツールを使い、物語の分析とまとめを行うことができる。

DX前 (ICTを使っていなかった頃は・・・)

1 導入

- ①本時のめあて「やまなしの疑問について解き明かそう」
- ②教師による本時の学習説明

2 展開

- ①「やまなしの謎」について、模造紙を黒板に貼る。
 - 前時にやまなしについての疑問点を考えた。
 - それをKJ法を用いて精選し、精選したものを模造紙に貼った。
- ② 精選された問題に対して、一つずつ全員が同じ問題から解いていく。
 - 問題に対して自分の意見をノートに書く。
 - 必要に応じて討論や話し合いをして、学びを深める。
 - 教師により適宜説明が入る。

3 まとめ

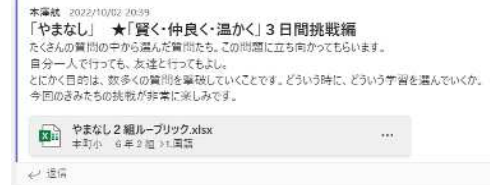
- ①今日分かったことについてまとめる。
- ②これから調べてみたいことや疑問点を確認する。
- ③確認をした上で振り返りを行う。



DX後 (赤字はICT活用場面)

1 導入

- ① Teamsによる「投稿」配信
 - Excelに本時のねらいを記載する
 このような学習方法は2度目だが自ら学習し、場合によって協力することを伝えた。



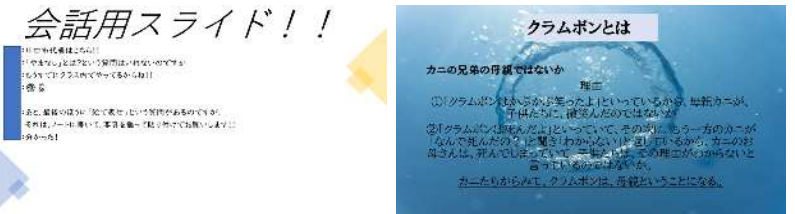
2 展開

- ① Excelを使った本時の学びの選択
 - Formsで集約したやまなしの問題から自分が解けそうな問題コースを選択する。
 - 本時は3時間扱いとし、本時で解ける問題数を入力後、学習を行った。
 - 同じコースを選択した子と学習をすることを許可し、必要に応じて協働することとした。
- ② 学習の多様化を図るツール選択
 - この授業においてのまとめ方はノート、PowerPoint、Wordの自分が使いやすいツールを選ばせた。

2編やまなし3日間 問題選定シート

問題と高得点のものもExcelで集約し、まとめるのノートでもWordでもExcelでもPowerPointでも可

問題番号	問題内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
1	...	2	2	3	2	3	3	3	7													
2	...	2	6	3	5	3	5	3	5	16												
3	...	4	3	3	4	3	3	3	6	13												
4	...	2	3	2	2	3	3	3	7	13												
5	...	2	2	3	3	3	3	3	5	4												
6	...	6	6	4	5	3	5	3	5	16												
7	...	2	3	2	2	2	2	1	2	7												
8	...	2	2	3	3	3	3	1	1	6												
9	...	3	1	3	2	2	2	1	2	5												
10	...	2	6	3	4	3	3	3	3	6												
11	...	2	6	3	4	3	3	3	3	15												
12	...	3	1	1	1	1	2	2	4	0												
13	...	3	1	1	1	1	1	2	2	4												
14	...	3	1	1	1	1	1	1	1	1												
15	...	5	1	1	1	1	1	1	1	1												
16	...	3	3	2	3	3	2	3	5	8												
17	...	2	2	2	2	2	2	2	2	2												



「やまなし」ノーベル文学賞コース

イサドとは何か(どのような町、場所なのか)

お父さんのカニの言い方からして、東京や、横浜などのこの物語の中の都会の町だと思ふ。もしかしたら、ここに、じくなった母がにお墓があるかもしれないとも考えた。ちなみに、南澤井ではつぎのような意味になる。「イ」(よい、いい)、「下」(所、場所)「サ」(へ)

カニたちから見て、クラムボンはどのような存在であるのだろうか。

クラムボンは、カニたちの母かだと思ふ。根拠は、かにを英語にすると、crab(クラム)になるため、かにだと思ふ。また、殺されてしまったよ、などの子どもがにの言動により母かにかがなくて死んでしまったのではないかと思ふ。

また、人間であるという説も考えられる。根拠は、アイヌ語でクラムボンは「人」という意味になるらしい。すると、この物語の舞台は、北海道であるかもしれない。

もう一つ、プランクトン(魚のえさ)説がある。根拠として、クラムボンは、笑った後、魚が出てきて、死んでしまったのに、魚が行ってしまった後に、もう1度笑っていたからである。食物連鎖

3 まとめ

- ①学習状況の振り返り
 - 本時において何問解くことができたのか、Excelに数値の人力をする。
- ②内容における振り返り
 - Formsに「今日の学習から分かったことは何か」を送信する。
- ③次回に向けてのコース選択
 - 挙手にてコースの確認をする。

授業者から (成果・課題・留意点)

・大きな枠組みはありながら、しかし自分で学びを選択することで、自ら主体的に学習する児童が増えた。

・学習時間を自ら調整しながら行う児童が増えた。

・3時間を通して、回を増すごとに「協働」と「個別」の意識が芽生えた。

・課題もある。例えば協働をする相手が友達同士で学びが深まらない。低位層への教師のアプローチの仕方の引き出しを増やすこと。教師が児童それぞれの学習を確認する方法などである。解決する課題はあるが、今後もこのような「自分で学習を調整できる授業」への創造をしていく。